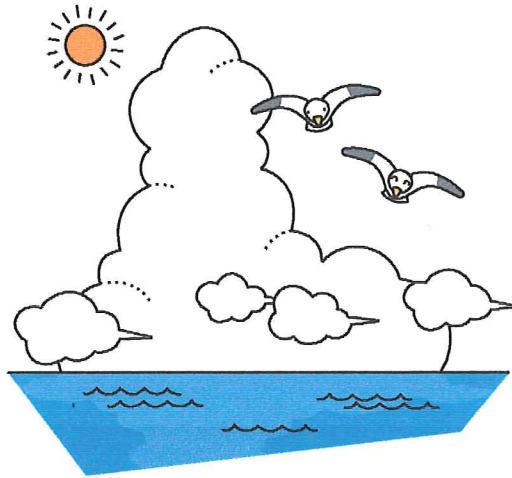


平成28年度

# 単元計画一覧

(指導計画略案)



宮崎県

串間市立市木小学校

## 3～5年 単元名「未来の市木を考える」（15時間）

### 1 単元設定の理由

- 本校は、平成25年度・26年度に県の環境教育推進校の指定を受け、「ESD」の考えを基に環境学習や教科学習の充実を図ってきた。その中でも、持続可能な取組として、グリーンカーテン作りや海岸清掃、環境浄化微生物「みずべ愛」を使った清掃活動など、身近な環境について考え、活動を続けている。このように、環境について考えることは、自分たちの住む地域の自然について考えることにつながり、本校が位置する市木の環境や自然について学び、考え、行動することで未来の市木を考え、市木の自然を守る児童の育成へとつながると考える。

そこで、これまで取り組んできた環境学習に合わせて、海洋教育の4つのコンセプトである「海に親しむ」「海を知る」「海を守る」「海を利用する」の視点を加え、新たな学びを追求していく。中でも、本年度は「海を守る」ための学習や活動を中心とし、海に対する親しみや関心を高めながら、身近な海・川の大切さに気付き、未来の市木を守る児童の育成を図っていく。

### 2 単元目標

- 身近にある自然の素晴らしさに気付き、積極的に海に係わろうとする姿勢を養うことができる。
- 海的环境やそこにつながる川・山の環境を調べ、体験活動を通して、環境問題や自然を守る方法について知ることができる。
- 体験活動を通して学んだことや気付いたことなどをまとめ、発表することで、自分たちの行動を振り返り、未来の市木の守るために積極的に考えることができる。

### 3 単元の評価基準

- 自分たちの住む地域にはたくさんの自然・環境があり、どのような問題が起きているのか知ることができる。
- 海を守ることの大切さや、その方法について考え、行動することができる。

4 単元の指導計画

時	学習活動		指導上の留意点
	主単元領域	関連単元領域	
(1)		<b>【海に親しむ】(5月)</b> ○砂の造形 (学校行事) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市木浜で砂の造形を行う。</li> <li>・ なぜ砂浜ができるのか、その仕組みについて知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 砂浜の仕組みに気付かせる。</li> <li>・ 貝殻を集め、次の活動への意欲付けを図る。</li> </ul>
(3)		○貝殻を使って (図画工作) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 拾った貝殻を使い、海の様子を表現する。</li> </ul>	
1		<b>【海を守る】(5月)</b> ○小中合同ボランティア活動・石波海岸清掃活動 (学校行事) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中学校と合同で清掃活動を行う。</li> <li>・ どんなゴミがあるか、どれくらい落ちているか確認する。</li> </ul>	
7		<b>【海を守る】(6月)</b> ○川の環境を守ろう <市木川の水質調査・生き物調査> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 水質調査の事前学習を行い、調査の方法や水辺の環境について学習する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日南保健所の協力のもと活動を進める。</li> <li>・ 近隣校と合同で実施することで、水質調査の結果を発表し合う。</li> </ul>
(1)		<b>【海を知る】(6月)</b> ○海のロマンを知る (道徳) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 航海の方法や海の魅力について話を聞く。</li> </ul>	
(1)		<b>【海に親しむ】(7月)</b> ○マリンスポーツ (クラブ) <サーフィン> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ サーフボードに乗ったりパドリングで前に進んだりする。</li> <li>・ 海の危険について知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校のプールを使用し、安全に留意して活動を行う。</li> <li>・ 海への関心を高めるだけでなく、海の危険についても考えさせる。</li> </ul>

<p>(1)</p>	<p><b>【海を守る】(7月)</b>  ○海を守ろう  &lt;アカウミガメ学習会&gt;  ・ アカウミガメ保護員の方の話を聞き、アカウミガメを保護し、放流するまでの流れや思いを知る。(事前学習)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域のアカウミガメ保護員との連絡調整</li> <li>・ 事前学習を行うことで、アカウミガメを保護する理由や放流に対する思いを高める。</li> </ul>
		<p><b>【海を利用する】(8月)</b>  ○地域の行事に参加しよう(時間外)  &lt;アカウミガメ(稚ガメ)放流&gt;  ・ アカウミガメの放流を行う。</p>
<p>(5)</p> <p>(1)</p>		<p><b>【海を知る】(9月)</b>  ○見学に行こう①  &lt;イルカランド見学&gt;(学校行事)  ・ イルカランドにいる生き物について知る。  ・ イルカの生態について知る。  ・ イルカショーを見る。  ・ イルカのトレーナーの方から、トレーナーになるまでの苦労や仕事に対する思いを聞く。  ○見学に行こう②  &lt;ディベート&gt;(国語)  ・ 「イルカランドにいる生き物と野生で暮らす生き物はどちらが幸せか」というテーマでディベートを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ イルカランドの方との連携を図り、事前に活動内容・目的について知らせておく。</li> <li>・ なぜ生き物たちがここに集まっているのか考えさせる。</li> <li>・ 事前に意見をまとめさせ、ディベートを行う。</li> </ul>
<p>4</p>	<p><b>【海を守る】(10月)</b>  ○生活を見直そう  &lt;みずべ愛、廃油キャンドルづくり&gt;  ・ みずべ愛(環境浄化微生物)を作り、生活排水が川の水質に影響を与えることを知る。  ・ 廃油キャンドルを作り、廃油のリサイクル法や、地球温暖化などの環境保全活動につながることを学ぶ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講師との連絡調整</li> <li>・ 環境を守るための活動がこれまでの活動とどのようにつながっているのか、まとめと発表の場を設ける。</li> </ul>

		<p>【海を利用する】(11月)</p> <p>○地域の行事に参加しよう(時間外)</p> <p>&lt;市木浜クリーン作戦&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の方と一緒に海岸の清掃活動を行う。</li> </ul>	
2		<p>【海を守る】(12月)</p> <p>○山の環境を守ろう</p> <p>&lt;森林体験活動&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 川や海へ流れてくる水は山からつながってきていることを知る。</li> <li>・ 枝打ちや植樹を行い、山を守るための作業について知る。</li> <li>・ 山の環境を守ることが、川や海を守ることにつながっていることを学ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講師との連絡調整</li> <li>・ 海・川・山のつながりについて事前学習を行う。</li> </ul>
<p>外部連携/教材等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 清掃活動・・・市木中学校、地域と連携</li> <li>・ サーフィン体験・・・市木応援団、プロサーファー</li> <li>・ 水質調査・・・日南保健所 事前打ち合わせ</li> <li>・ イルカランド見学・・・イルカランド 事前調査</li> <li>・ アカウミガメ放流・・・アカウミガメ保護員 田代さん 事前調査、打合せ</li> <li>・ みずべ愛・廃油キャンドルづくり・・・環境アドバイザー 河野幸子さん 事前打ち合わせ</li> <li>・ 森林体験活動・・・環境アドバイザー 河野幸子さん 事前調査、打合せ</li> <li>・ 作詩活動・・・作詞家 伊藤美和さん 事前打ち合わせ</li> </ul>			



関連単元名「海に親しむ～砂の造形」( 5月 )

1 本時のねらい

- 渚100選の砂浜で、砂の造形を行い、環境の素晴らしさを味わわせる。

2 領域・時間

特別活動「学校行事」1時間

※ 学校行事「春の遠足」の中の1時間

3 本時の指導計画

主な学習活動	指導上の留意点
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ レクリエーション                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ グループ毎に作る内容を決めて、砂の造形を行う。</li> <li>・ 作品ができたら、感想を述べ合う。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 活動中にどんなことに気付いたかを活動の最後に発表してもらうことを伝えておく。</li> </ul>

4 外部との連携等

- ※ この取組で、浜辺には自然の漂着物や家庭から出される生活ゴミ、マナーの悪さから出るゴミなどから、環境を守る事が必要であることを児童に気付かせる。さらには、海を守るというコンセプトにつなげていく。

関連単元名「海に親しむ～貝殻を使って」( 5月 )

1 本時のねらい

- 石波海岸で拾った貝殻を使って、海辺の自然を表現させる。

2 時間・領域

図画工作 3 時間

3 本時の指導計画

主な学習活動	指導上の留意点
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 造形活動を思い出し、どんな海辺の自然にするかを考える。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 感じたことを発表する。</li> <li>・ 作りたいものを発表する。</li> </ul> </li> <li>○ 創作活動                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4つのグループに分かれ、学年に応じた活動をする。</li> <li>・ できあがったら、大きなパネルに作品を貼り付ける。</li> <li>・ 活動終了後、感想を発表する。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 活動の最後に発表したことも思い出させる。</li> <li>○ 異学年別縦割りで4つのグループを作る。能力に応じた取組として、1年生は髪を切って貼り付けたり、2年以上は試行錯誤をさせながら、貝殻アートをさせる。</li> </ul>

4 外部との連携等

- ・ 別になし

※ この取組で、浜辺の自然を活用することの楽しさをに気付かせる。そして、「海を守る」ということは、海に係わった人が楽しさを覚えることに気付かせる。



単元名「海を守る～清掃作業(ボランティア活動)」( 5月 )

1 本時のねらい

- 石波海岸の清掃を行うことにより、漂流物の多さに気付かせ、自然の美しさ(景観)を守っていくことの大切さを感じさせる。

2 領域・時間

海洋教育科 「1時間」 . . . . 「春の遠足」活動の延長上で設定

3 本時の指導計画

主な学習活動	指導上の留意点
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 清掃活動                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ グループ毎にビニール袋をもち、中学生と協力して活動する。</li> <li>・ 活動終了後、感想を発表する。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 活動終了後に、感想を発表してもらうことを伝えておく。</li> </ul>

4 外部との連携

- ・ 市木中学校との清掃活動(ボランティア活動)の打合せ

※ この取組で、浜辺には自然の漂着物や家庭から出される生活ゴミ、マナーの悪さから出るゴミなどから、環境を守る事が必要であることを児童に気付かせる。さらには、海を守るというコンセプトにつなげていく。

**単元名「海を守る～川の環境を守ろう」( 6月 )**

1 本時のねらい

- 河川などの身近な水環境をテーマにした体験型学習を通じて、水環境問題に関心を持ち、水環境保全への環境保全活動につなげるための知識を学ばせる。
- 海につながる川の環境を知り、自然環境を大切にしておくにはどうしたらよいかを感じ取らせる。

2 領域・時間

海洋教育科 「7時間」

3 本時の指導計画

主な学習活動	指導上の留意点
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 事前学習(2時間)                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 水保全に関する基礎的な内容を学習する。</li> <li>・ 水生生物の基礎的な内容とデモ的水質実験を行う。</li> </ul> </li> <li>○ 体験学習(2時間)                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実際に川に行き、水辺環境調査を行う。</li> <li>・ 調査のまとめをする。</li> </ul> </li> <li>○ 事後学習(3時間)                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習のまとめをして、分かったことなどを整理して、ポスターにまとめ、発表する。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 水の循環を中心に、環境保全という立場も含めて、川、海、山、家庭、公害等について分かりやすく説明をしてもらう。また、五感で調べる方法を教えてもらったり、水生生物で水の状況を知ることにも教えてもらう。</li> <li>○ 自然の音、水生生物、水のきれいさ、匂い、透明度、風景など五感を使って調査をさせる。</li> <li>○ 最後はパネルにして情報を発信することを伝える。</li> </ul>

4 外部との連携

- ・ 宮崎県日南保健所衛生環境課
- ・ 近隣の小学校(秋山小学校)との合同調査

※ この取組を通して、身近な水環境を考えたときに、素晴らしい環境を守るためにどうしたらよいか、環境を守る事の必要性を考えさせ、海との関連に気付かせる。

※ 県ホームページ「ふるさとの水辺」にこの結果を公表する。

関連単元名「海を知る～海のロマンを知る」( 6月 )

1 本時のねらい

- 講師がこれまでの取組んでこられた活動内容の中から、航海の方法や海の魅力など、夢がもてる話をしてもらい、海のロマンについて学習させる。

2 時間・領域

道徳の時間 1 時間

3 本時の指導計画

主な学習活動	指導上の留意点
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 講師の紹介                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 写真にて紹介</li> </ul> </li> <li>○ 1万三千キロの航海                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 航海の話とクイズ形式</li> </ul> </li> <li>○ 星空のワークショップ                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体験的活動をする。</li> </ul> </li> <li>○ 海にかける思い                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講師の自己経験を聞き、自分のこれからの考える。</li> <li>・ 児童のこれからについて期待を聞く。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ プレゼンテーションにより、視覚に捉えさせるようにして、興味関心を持たせる。</li> <li>○ クイズが最終的に何問正解できたかを最初に伝え、話をよく聞くように仕向ける。</li> <li>○ 闇の中で方位が分かる術を知り、生きる力となることを体験させる。</li> <li>○ 苦しいときや辛いときにどう考えるか、講師の経験談を参考に考えさせる。</li> </ul>

4 外部との連携等

- ・ 講師 内野加奈子 氏(海洋写真家)
- ・ 森と海のアカデミー(地域応援団)

関連単元名「海に親しむ～サーフィン教室」( 7月 )

1 本時のねらい

- 本校は、サーフィンに適した海岸(石波海岸や恋が浦海岸)を有しながらも、小学校の段階でサーフィンをして海と触れあうことが少ない。そこで、海のふれあいの楽しさを知ることと合わせ、海の危険なことを同時に学んでもらうために、プロのサーファーを招き、指導してもらう。

2 時間・領域

特別活動 (クラブ活動) 1時間

3 本時の指導計画

主な活動内容	指導上の留意点
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 指導代表者の挨拶                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ プロサーファーとその有志の紹介</li> </ul> </li> <li>○ 準備体操と事前準備</li> <li>○ サーフィン体験                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ パドリング</li> <li>・ サーフボードの立ち方</li> </ul> </li> <li>○ パドリング・リレー競技(ゲーム)                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3グループを作って、パドリングによるリレー競争をする。</li> </ul> </li> <li>○ 「楽しさと危険は隣り合わせ」の話                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 挨拶の中で、今日の活動について説明をしてもらい、興味を持たせる。</li> <li>○ 準備体操は、児童の方で進める。</li> <li>○ 模範を示してもらい、一人一人にポイント示してもらう。</li> <li>○ 楽しく競争をするようにして、本物の海でやってみたいという気持ちに湧かせる。</li> <li>○ 危険なことはどんなことか?情報入手の仕方を伝える。</li> </ul>

4 外部との連携等

- ・ 副団長 島田 愛子 氏(未来の市木の子どもを育てる応援団)
- ・ プロサーファーとその有志

**単元名「海を守る～海の環境を守ろう」( 7月 )**

1 本時のねらい

- これまでの学習を通して、ゴミ問題について関心を持つようになってきたことにあわせて、そのゴミが海の動物にどう影響を及ぼしているかを考えさせる。
- 海につながる川の環境を知ったことで、グローバルなものの考えができるようにし、自然環境を大切にしていこうとする心を培わせる。

2 領域・時間

海洋教育科 「1時間」 事前学習(1時間)関連単元領域において  
事後学習(1時間)時間外

3 本時の指導計画

主な学習活動	指導上の留意点
<p>■ 事前学習(1時間)関連単元領域において</p> <p>○ アカウミガメ学習会(1時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ アカウミガメ保護協力員の自己紹介と仕事の紹介</li> <li>・ アカウミガメの事を学習する。</li> <li>・ 自分たちは何をすべきかを考える。</li> </ul> <p>■ 事後学習(1時間) 時間外で実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul>	<p>□ 事前学習については、環境問題を考えさせるようにする。</p> <p>○ イメージが湧くようにプレゼンを準備する。 アカウミガメが上陸してから、産卵をし、海に帰っていくまでの説明をしてもらう。そのとき、環境問題と合わせて説明をしてもらい、保護協力員としての思いを語ってもらう。</p> <p>□ 学習したことを想起し、今どのように動くかを考えさせながら、放流活動をさせる。</p>

4 外部との連携

- ・ 田代 保則 氏(串間市アカウミガメ保護協力員)

関連単元名「海を守る・利用する～アカウミガメ学習・放流」(7・8月)

1 本時のねらい

- これまでの学習を通して、ゴミ問題について学習してきたことが海の動物にどう影響を及ぼしているかをもう一度確かめさせる。
- アカウミガメ学習のことを思い出して、稚ガメ放流を行い、体験したことから、今後どのようにしていったらよいかを考えさせる。

2 時間・領域

各教科・道徳・特別活動の中から1時間                      〈時間外〉

3 指導計画

主な活動内容	指導上の留意点
<p>■事前学習：各学級</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1学年～「道徳の時間」を活用し、昨年度の放流やウミガメの産卵の大変さを話し合う</li> <li>○ 2学年～「特別活動」を活用し、放流の写真を見せながら、放流の意義を考えさせる。</li> <li>○ 3・4学年～「総合的な学習の時間」を活用し、アカウミガメの事や放流、そして疑問に思うことを話し合う。</li> <li>○ 5学年～「理科」を活用し、動物の誕生と関連させて、放流の意義を学習した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 事前学習が、「アカウミガメ学習」「稚ガメ放流体験活動」につながる事を意識させる。</li> <li>○ これまで行われてきた放流の写真を見せながら、環境教育と関連させて考えさせる。</li> </ul>
<p>■事後体験学習：時間外(有志)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 今日の目的を確認する</li> <li>○ 保護協力員の説明を聞き、これまでの学習を想起する。</li> <li>○ 指示に従い、稚ガメを放流する。</li> <li>○ 放流後、集合してこれまでの学習を含めて感想を書く</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 夏季休業(夏休み)中のため、参加できる児童で体験学習を行わせる。</li> <li>○ 稚ガメの様子と周りの環境に目を向けさせ、ゴミ問題への意識付けを行う。</li> </ul>

4 外部との連携等

- ・ 田代 保則 氏(串間市アカウミガメ保護協力員)

関連単元名「海を知る～見学に行こう①〈イルカランド〉」( 9月 )

1 本時のねらい

- 海に関する施設の見学を通して、海に生きる生き物の生育環境やそこに関連する仕事に関心をもたせる。
- 生き物と環境のつながりに気付くことで、海の自然環境を保全していこうとする気持ちを持たせる。

2 時間・領域

学校行事 5時間

3 指導計画

主な活動内容	指導上の留意点
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ イルカランドのトレーナーから説明を聞く                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ イルカのこと</li> <li>・ 環境のこと</li> <li>・ 仕事のこと (苦労や思い)</li> </ul> </li> <li>○ 施設見学〈海の動物に触れてみよう〉をする</li> <li>○ ペンギンを見学する                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ペンギンのこと</li> <li>・ 環境のこと</li> </ul> </li> <li>○ イルカショーを見る</li> <li>○ 自由に体験する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各学年で事前に、なんのために見学をするのかを発達段階に応じてコンセプトの「親しむ、守る」という観点で学習をしておく。</li> <li>○ 施設見学や体験をしていく中で、疑問に思ったことや感じたこと、新たに知ったことをメモしていくように指導をしておく。</li> <li>○ 事後の学習で感じたことを表現する場をディベートして設定して行くことを伝えておく。</li> </ul>

4 外部との連携等

- ・ 志布志湾大黒イルカランド (体験型テーマパーク)

関連単元名「海を知る～見学に行こう②〈ディベート〉」( 9・10月 )

1 本時のねらい

- 海に関する施設の見学を通して、海に生きる生き物の生育環境やそこに関連する仕事に関心をもたせる。
- 生き物と環境のつながりに気付くことで、海の自然環境を保全していこうとする気持ちを持たせる。

2 時間・領域

3・4・5年国語科 1時間

3 指導計画

主な活動内容	指導上の留意点
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ディベートテーマ「水族館にいる海の生き物は、野生の生き物に比べて、幸せである。」について、賛成・反対に分かれて、意見を出し合う。</li> <li>○ 相手が何を言っているのかをよく聞き、これまで感じ取ったことを分かりやすく説明していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ いろいろな観点「弱肉強食」「餌」「環境」等の側面から意見を出させる。</li> <li>○ これまでの学習から、気持ちを代弁できるようにする。</li> <li>○ 野生の生き物は、本当にそれを望んでいるのかなどをこれまで学習してきたことを中心に考えさせる。</li> <li>○ 途中で意見が変わった場合は、賛成・反対のエリアへそれぞれに移動する。</li> </ul>

4 外部との連携等

( なし )



単元名「海を守る～生活を見直そう(みずべ愛づくり)」( 10月 )

1 本時のねらい

- 毎日の生活の中で身近な「水」の環境を守っていかうとする態度を育てるため、串間市が取り組んでいる環境教育活動の一つである環境浄化生物(みずべ愛)を作った環境保全活動を行わさせる。
- 海と川のつながりについて知り、川を守ることが海を守ることにつながることを理解させる。

2 領域・時間

海洋教育科 「2時間」

3 本時の指導計画

主な学習活動	指導上の留意点
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 講師のことを知る</li> <li>○ みずべ愛について知る                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生活排水が水環境に及ぼす影響について発表する。</li> <li>・ 環境浄化生物を使った液体の作り方を知る。</li> </ul> </li> <li>○ 全員で「みずべ愛」を作る</li> <li>○ 児童が感想を発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 作成時間の確保のために講師の紹介を簡単にする。</li> <li>○ 事前に学習してきたことをこの場で発表させ、意識化を図る。</li> <li>○ できるだけたくさん作り、今後のボランティア活動に生かすことができるようにする。</li> <li>○ もう一度なんのためにこの製作をしているかを確認させる。</li> </ul>

4 外部との連携

- ・ 河野 幸子 氏(宮崎県環境保全アドバイザー・環境ボランティアグループ体表)

単元名「海を守る～生活を見直そう(廃油キャンドルづくり)」( 10月 )

1 本時のねらい

- 生活排水が水環境を守ることにつながることを理解させ、生活を見直そうとする態度を育てる。
- 廃油を使ったキャンドル作りを通して、環境保全活動に関心を持たせる。

2 領域・時間

海洋教育科 「2時間」

3 本時の指導計画

主な学習活動	指導上の留意点
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 講師のことを知る</li> <li>○ みずべ愛について知る                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 廃油が水環境に及ぼす影響について発表する。</li> <li>・ 廃油を使ったキャンドル作りを知る。</li> </ul> </li> <li>○ 全員で「廃油キャンドル」を作る</li> <li>○ 児童が感想を発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 作成時間の確保のために講師の紹介を簡単にする。</li> <li>○ 事前に学習してきたことをこの場で発表させ、意識化を図る。</li> <li>○ できるだけたくさん作り、今後のボランティア活動に生かすことができるようにする。</li> <li>○ もう一度なんのためにこの製作をしているかを確認させる。</li> </ul>

4 外部との連携

- ・ 河野 幸子 氏(宮崎県環境保全アドバイザー・環境ボランティアグループ体表)

**単元名「海を守る～山の環境を守ろう」( 12月 )**

1 本時のねらい

- 植樹や枝打ちを体験し、山の環境や自然を守るための仕事や、作業の大切さを知ること、海・川・山のつながりについて考えさせる。
- 森林にあるたくさんの自然に触れることで、自然の豊かさに気付かせる。

2 領域・時間

海洋教育科 「2時間」

3 本時の指導計画

主な学習活動	指導上の留意点
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自然や山と海のつながりを知る。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小川や自然の音に耳を傾け、自然を感じる</li> <li>・ 山、川、海のつながりについて講師から知る。</li> </ul> </li> <li>○ 枝打ち体験をする。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 枝打ちをする意味を考える(説明を聞く)</li> <li>・ 枝打ちの体験をする。</li> </ul> </li> <li>○ 植樹体験をする。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 植樹をする意味を考える(説明を聞く)</li> <li>・ 植樹体験をする。</li> </ul> </li> <li>○ 児童が感想を発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 活動内容や目的については各学年で事前指導をしておく。 野山を歩くために安全には十分に配慮する。</li> <li>○ 移動しながら、説明がある時は耳を傾けるように指導しておく。</li> <li>○ 刃物を扱うため、取扱には十分注意するよう指導しておく。</li> <li>○ 木を育てることは、どんなことにつながるのかをこれまでの学習と照らし合わせて関連づけをしっかりとしておく。</li> <li>○ 事前に学習してきたことをこの場で発表させ、意識化を図る。</li> </ul>

4 外部との連携

- ・ 河野 幸子 氏(宮崎県環境保全アドバイザー・環境ボランティアグループ体表)